

非同盟諸国首脳会議参加国への手紙

2022年4月23日 小松崎榮

ロシアのウクライナ侵攻が2か月余、その不当性と共に残虐性が日に日に明らかになっています。4月23日の東京新聞は、旧ソ連に組み込まれていた東欧諸国で、プーチン政権をナチス・ドイツと同一する見方が拡大していると報じています。今や、ロシアへの批判と即時撤退を要求する声は、ますます高まっています。

私も日本 AALA の要請に応じてロシア大使館への抗議に何度か参加しカンパにもおうじていますが、もう一つ、日頃から言われている日本 AALA らしい取り組みがないかと考えました。

そして、世論の力がプーチン大統領を孤立化させ、侵略を止めるカギになると確信するにいたりました。その中で、非同盟諸国の動向が大きなカギを握ると考えました。国連の特別会合でのロシア批判と即時撤退の「国連決議」に賛同した141か国の半分は、非同盟諸国です。同時に、非同盟諸国の40%は、反対、棄権、意思表示なしです。

非同盟運動のマイルストーン(「道標」)は、国連憲章とバンドン宣言です。しかも、以下の手紙に記述しましたように、2016年の非同盟諸国首脳会議の「マルガリータ」宣言では、国連憲章と国際法の順守を確認するとともに、「**国際法に反して、合憲的政府を打倒する目的を持った、政権変更への違法な政策を否定した**」と力強く宣言しています(資料参照)。

非同盟諸国がこぞって、この「宣言」を基本にロシアの侵略戦争に対応したら、国際世論は大きく前進し、プーチン大統領を孤立化し、局面は打開できると考え確信しました。

その思いとささやかでも、一人一人の行動が積もれば大きな力になるとの私に人生観から、下記の手紙を、日本 AALA の会員の方に翻訳していただき、非同盟諸国の日本駐在大使館(約100か所)の大使と連帯と激励を含めてウクライナ大使館の大使に郵送でさしあげました。

.....

非同盟諸国首脳会議参加国の皆さんへ

2022年4月 日

東京都府中市武蔵台2-36-16 小松崎榮

非同盟運動の歴史と伝統、真価を発揮し、ウクライナに対するロシアの武力侵略をやめさせ、ウクライナと世界に平和を取りもどしましょう。

私は2012年の第16回非同盟諸国首脳会議と2016年の第17回非同盟諸国首脳会議に、オブザーバーとして参加した者です。

これらの会議で改めて非同盟運動の伝統と実績を噛みしめ、マイルストーンである国連憲章とバンドン宣言が各国の主権の確保と平和共存に対し如何に大切かを再認識しました。

特に、第17回首脳会議で採択された「マルガリータ宣言」の前書きでは、国際的危機の多くは、国連憲章及びバンドン10原則に記された目的と原則の侵害によると強調し、更に、国連憲章の原則と目的、並びに国際法及び諸国間の友好関係と協力に関する宣言の規定と原則を再確認すると明文化しています。

その上で、宣言の第2項の「国際秩序の強化」では、今次の首脳会議では「国連憲章第2条及び6章、1970年10月24日の国連決議26/25及び国際法に則って、論争の平和的解決を促進続けていくことを繰り返した」とし、国家の主権の尊重、国家の領土保全、国家の内政への不干涉、紛争の平和的解決、武力による威嚇又は行使の抑制を尊重する決意を再確認したことを明らかにしています。そして、『国際法に反して、合憲的政府を打倒する目的を持った、政権変更への違法な政策を否定した』と力強く結んでいます。(資料参照)

また、第4項の「軍縮及び国際安全保障」では、「大量破壊兵器、特に核兵器の存在が人類にもたらす脅威を取り除くために、努力を倍加する意志を再確認した」とし、核兵器のない世界に向けて取り組むことを明確にしています。(資料参照)

私は、この大変すばらしい宣言に感動し共感し、採択された参加国の皆さんに敬意を表しました。

ところが、2022年2月24日、ロシアは主権国家・ウクライナに武力侵攻しました。また、プーチン大統領は、核戦力の警戒態勢を強化する」「各部隊に戦闘警戒態勢を命じると」と核兵器を使用する可能性に言及し威嚇をしています。

これは、国連憲章第2条及び6章に明確に違反しているだけでなく、上記に述べた「マルガリータ宣言」を踏みにじるものです。

ロシア軍の侵攻以来、ウクライナの国の主権が踏みにじられ、毎日・毎日、無辜の市民が殺傷され美しい街と住居が破壊されています。その非人道、残虐さはキーウ周辺のブチャなどで明らかです。このような惨状を続けさせるわけにはいきません。一刻も早く武力侵攻を止めさせ、人々の命と国の主権を守らなければなりません。

国連憲章とバンドン宣言等のマイルストーンを持ち、国家の主権と平和、人権を守る伝統と歴史があり、改めて「マルガリータ宣言」でそのことを誓いあった非同盟運動の真価を、今こそ発揮する時だと思えます。また、非同盟運動に結集する皆さんの影響力は大変大きいと確信しています。

非同盟諸国首脳会議の参加国の皆さん、これまでの核兵器廃絶や平和へのご努力に敬意を示しつつ、ロシア軍がウクライナへの武力侵略を直ちに中止しウクライナから撤兵するように、プーチン大統領に対する今一段の働きかけを心からお願いをいたします。

資料

DRAFT DECLARATION OF THE VII SUMMIT OF HEADS OF STATE AND GOVERNMENT OF THE NON-ALIGNED MOVEMENT (NAM)

17-18 SEPTEMBER 2016

1.Strengthening International Peace and Security: They reiterated that they will continue to promote the peaceful settlement of disputes,in accordance with Article 2 and Chapter VI of the Charter of the United Nation, as well as with the UN Resolution 26/25 of 24 October 1970 and

international law ,in order to contribute to achieve said objective and to save future generations from the scourge of war and military conflict.

They further rejected the illegal policies of regime change aimed at overthrowing constitutional Governments, in contravention of international law.

Furthermore ,they stressed that overcoming conflicts and the achievement of a firm and lasting peace requires a holistic approach that addresses the structural causes of conflict,in order to realize the three pillars of the United Nation: peace and security, development and human rights.

4 . Disarmament and International Security: They reaffirmed their intension to redouble efforts towards eliminating the threat posed to the human species the existence of weapons of mass destruction, particularly nuclear weapons. In this regard they resolved to work to achieve a world free of nuclear weapons.

自己紹介

- ・ 氏名 小松崎 榮 ・ 国籍 日本国
- ・ 住所 1 8 3 - 0 0 4 2 府中市武蔵台 2 - 3 6 - 1 6
- ・ パソコンのメールアドレス ko302624@outlook.jp
- ・ 1 9 3 7 年生まれ 日本 AALA 会員、役職は顧問
- ・ 第 1 6 回、1 7 回の非同盟諸国首脳会議に、オブザーバー組織 AAPSO の代表の一人として参加。

* 写真は、第 1 7 回非同盟諸国首脳会議の会場で撮影したものです。

